

FUKURO I

農業委員会だより

袋井の地から
未来へ農業をつなぐ新規就農者
私たちは じねんじょ いちご、自然薯
レンコンを栽培しています



特集

- 頑張る新規就農者を応援しています
就農へのきっかけと今後をインタビュー
- 「荒廃農地を栗園に再生!」笠原地区で進行中
荒れていた農地が地元の協力のもと和栗に生まれ変わっていきます



私たち農業委員会はこんな団体です

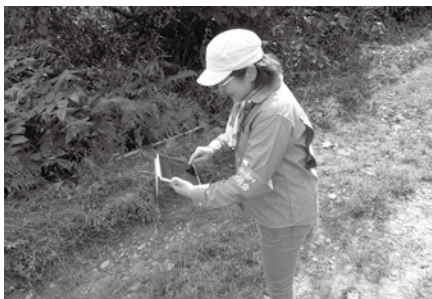
農業委員会は、豊かな農地を守り有効に活用することや農地法に基づいた農地の権利移動に関する審査・許可、地域農業の相談など、農業委員十六人と農地利用最適化推進委員十二人が、農業にかかわる様々な仕事をしています。

○農地が効率的に耕作されるように「農地利用の最適化を推進」すること。
地域の人たちと、農地の利用について話し合いをしています。

○農地の売買や貸借、農地を宅地に転用すること。
農地の権利移動について審査します。

○農地の利用状況を調査して遊休農地の発生防止や解消すること。

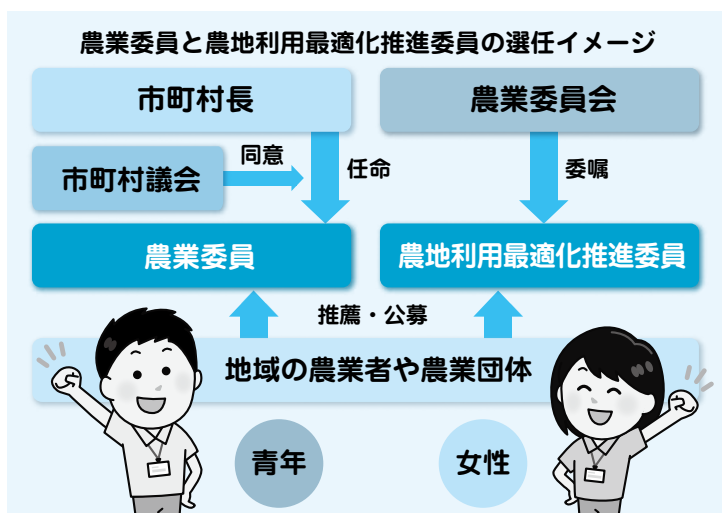
農地の利用状況を調査を毎年実施しています。



農業委員や
農地利用最適化推進委員は
どうやって決まるの？

農業委員・農地利用最適化推進委員は、地域の農業者や農業団体からの推薦や公募によって募集されます。

農業委員は、袋井市議会の同意を得て袋井市長から任命され、農地利用最適化推進委員は農業委員会から委嘱されます。



農業委員長 あいさつ

袋井市農業委員長 永田 勝美



袋井市農業委員会だより発刊にあたり、ご挨拶申し上げます。

農業委員会は、皆さんの食卓に安全で美味しい農作物が届くように農地の有効的な利用のための審査、農業者の育成や支援、地域農業の問題解決に農業者と一緒に取り組むなど、地域農業の相談者となる組織です。

昨今、米の価格が上がる、店頭から米が消えるなど、いわゆる「令和の米騒動」について報じられています。

この米騒動には、いろいろな原因があるとされていますが、大きな原因のひとつに、ここ数年続く猛暑により、米の成育不良や収穫量が減るなどの高温障害がございます。

皆さんの食卓に安心安全な米を安定して届けるためには、米の増産が必要とされていますが、そのためには、農家の方々が効率的に米作りを行える環境づくりや米づくりに欠



袋井のクラウンメロン品評会が日本平ホテルで初開催！

クラウンメロン品評会は、生産技術向上と生産者の意識高揚を目的とし、季節ごとに開催をしています。

今年度は、市政施行二十周年を記念し、静岡県農業協同組合クラウンメロン支所と袋井市によって「クラウンメロン品評会in日本平ホテル」を八月二十九日に日本平ホテルで、初めて開催しました！



クラウンメロンが

できるまで

メロンは、一本の木にいくつか実が付きませんが、クラウンメロンは、その中から一つだけを残し、すべての栄養分が集中するように育てています。

また、メロンは、太陽の光を好みます。光をたくさん取り込むため、光を通しやすいガラスの温室で育てられています。クラウンメロンは、このようにして大切に育てられ、できています！

かすことができない農業用水の安定的な供給が必要となります。

今年の三月には、農業の将来像を示す「地域計画」が、地域農業関係者の協力のもとで策定されました。この地域計画では、耕作者ごとに農地を色分けし、地域における耕作の現状が地図として示されておりあります。

県内有数の米どころである本市では、将来にわたり安定的に農業を行うために必要な、農地面積を拡大する「農地の集積」や農地の分散化を解消して効率的に農業を行う「農地の集約」などの環境づくりが進んでいることがわかります。

これは、大切な農地を守るため、農業者と農地所有者が、自主的に環境づくりに取り組んで来られた、先人の努力にほかなりません。大切な農地を未来につないでいく取組は、地域で自主的に農村環境の保全に取り組む「多面的機能支払交付金事業」として受け継がれています。

わたくしたち農業委員会も、大切な農地を次の世代につなげ、今後も市民の皆さんが美味しい袋井の農作物を安心して食べていただけるように、市と連携して取り組んでまいりますので、今後とも、よろしく願います。

頑張る新規就農者を応援しています！

祖父の自然薯を 残したい

やべ たい き
矢部 太偉希さん

祖父が農業を引退すると聞き、継承を意識したという矢部さん。

別の仕事から新規就農者となった矢部さんが特に驚いたことは、体力がとも必要であること、農業は奥がとも深いということでした。

「自然薯づくりは、多くの作業が手作業で行われており、その作業量と肉体労働の過酷さに祖父の大変さを実感した。」と言います。

しかし、矢部さんは自然薯づくりについて「特に冬の植え付け時期は、寒さが厳しく大変な作業にはなりますが、自分がしっかり手をかけた分だけ、自然薯は素直に青々と育ってくれるんですよ。」と笑顔で答えてくれました。

今後の目標について、自然薯が袋井の新たな特産品となるように頑張っていきたい。

また、若い世代で袋井の農業を盛り上げていきたいと力強く話してくれました。



自分でいちごを 育ててみたい

あき
原崎 あきさん

牧之原市で複合経営農家に勤めていた原崎さんは自分でイチゴを育ててみたいと思い、就農を決意したそうです。

育てるイチゴの品種は、数あるイチゴの品種の中でも自身が最も好きだという「きらび香」に絞り、日々奮闘しています。

「イチゴの様子を見ながら、肥料の量などを変えることが難しいのですが、やりがいがある。毎日がとても楽しいです。勇気を出して一歩踏み出せば、誰でも夢は叶うということをみんなに知ってもらいたい。」

多くの人に袋井市の農業に興味を持ってもらえたらうれしい。」と、とても素敵な笑顔で話してくれました。

原崎さんには、十年以内に叶えたい夢がいくつかあるそうで、その中でも最も大きな夢が「農林水産祭で天皇杯を受賞すること」。

原崎さんの夢を応援しています！



師匠に支えられ、 レンコン栽培へ

やまもと かずや
山本 和也さん

両親が農業を引退すると聞き、その農地で何が作れるか模索するために、自ら様々な農家さんを訪問して回り、レンコンづくりの師匠と慕う農家さんに出会った山本さん。

「農業を始めると、肥料は足りているのか、レンコンが沢山生えて問題ないのか、ちゃんと収穫できるのかと不安が大きかった。しかし、すぐ相談ができる師匠が近くにいてくれたことは心強かったですね。」と語ってくれました。

レンコンは、初年度が一番収穫量が多いそうで、山本さんの農地はレンコンの葉がとても元気に発育していました。自営業と農業を平行して取り組む山本さんの姿を見て「収穫したレンコンを洗う時は手伝うよ。」と地域の方々から声をかけてもらうこともあるそうです。

中間管理事業や補助金を活用し、農地を広げつつ、いつか完全無農薬の有機レンコンをつくることに挑戦してみたいと語ってくれました。



「荒廃農地を栗園に再生！」

笠原地区で進行中！

解消前



解消後



市では、耕作者がおらず、荒れてしまった農地（荒廃農地）の解消が地域農業の大きな課題となっています。

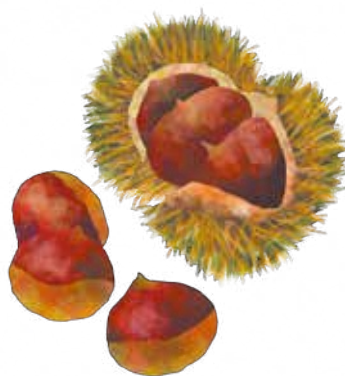
課題解決に向けた取り組みのひとつとして、笠原地区の農業委員、農地利用最適化推進委員が中心となり、地域の方々の協力のもと令和6年度から荒廃農地で和栗栽培のための栗園として再生をする取り組みが始まっています！

令和6年度は、約 5,000 m²（テニスコート 20 面分）が栗園として再生され、今年度も再生への取り組みが進んでいます！



まつ おかずひろ

※苗木を植えている栗農家の松尾和広氏



市や県では、荒廃農地の解消に必要な経費の負担を軽減し、荒廃農地の活用を促進するため、農業者が実施する荒廃農地解消事業を支援しています。

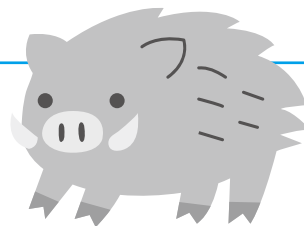
「荒廃農地を栗園に再生」も、この支援事業を利用しています。支援事業により再生された農地で収穫された野菜には、市内学校給食の食材として使用されているものがあります。支援事業の詳細については、農政課農地利用係までお問合せください。

鳥獣害対策について

農作物の鳥獣被害を防ぐには…基本はエサ場を作らないことが基本!

鳥獣被害対策は、集落が一体となって取り組むことが重要です。
対策に取り組み、鳥獣にとって魅力のない地域にしましょう。

- ◆野生動物は、集落にエサが無ければやってきません。
- ◆集落にきた野生動物がエサにありつければ、それは餌付けと同じことです。
- ◆農作物以外に、生ごみや放任果樹なども餌付けの要因になっています。



令和7年度狩猟免許試験のご案内

【第二回】令和8年2月8日(日)午前9時から

試験会場	免許種別
中遠総合庁舎(磐田市見付3599-4)※定員あり	わな猟
浜松総合庁舎(浜松市中央区中央1-12-1)	第一種銃猟、第二種銃猟

・お問い合わせ先: 静岡県中遠農林事務所森林整備課(TEL:0538-37-2301)

・令和7年度狩猟免許試験 静岡県公式ホームページ

(<https://www.pref.shizuoka.jp/kurashikankyo/shizenkankyo/wild/1017684.html>)

農業用施設の適正な管理をお願いします

近年、農業用施設に設置された燃料タンクから重油が漏れて、水路へ流出する事故が市内で発生しています。

重油流出事故は、火災の危険性があり、農作物などへの被害を引き起こすだけでなく、河川や海、水田への環境汚染などの被害を長期にわたって及ぼすことがあります。

万が一、重油流出事故が起きた場合には、事故処理費(流出物の回収・処分など)は原因者が負担することになりますので、日頃から重油などの危険物を取扱う施設を適正に管理し、事故を起こさないように十分に注意しましょう。

◆万が一、事故が発生した場合は必ず関係機関への連絡を

重油流出事故が発生した場合は、直ちに市役所農政課、西部健康福祉センター、消防機関や警察署へ連絡をし、必要な応急処置を講じましょう。

◆流出事故に備えて用意しておくの良いもの

重油が流出、拡散する前に止めるため、必要なものの一例です。

流出事故に備えた準備物一覧

資材名	使用例
オイルマット	油分を吸着する
油ろ過吸着袋	活性炭などが入った袋で、水路に設置
ど 土 土 囊	流出を止める、水の流れを変える
ごみ袋	吸着済みのオイルマットを入れる
ウエス(ぼろ布)	流出した汚水等を吸着させる
回収容器(タンクなど)	緊急槽の代替として使用



しっかり積み立て、がっちりサポート。安心で豊かな老後を。

農業者年金に加入しよう！

あなたの老後生活への備えは十分ですか？
年金は家族一人ひとりについて準備することが大切です！
老後の備えは国民年金プラス農業者年金が基本です！

6つの農業者年金の特徴とメリット

①農業者の方なら広く加入できます。

- 年間60日以上農業に従事する60歳未満の方
- 国民年金の第1号被保険者（保険料納付免除者を除く）

※年間60日以上農業に従事する60歳以上65歳未満の国民年金の任意加入者も加入できます。

②少子高齢時代に強い「積立方式・確定拠出型」の年金です。

- 保険料を支払っている方の数や年金を受給している方の数が変化しても、その影響を受けない財政的に安定した制度です。

③通常加入の場合、保険料の額は自由に決められます。

- 通常加入の場合、保険料は月額2万円（35歳未満で政策支援加入の対象とならない方は1万円）から6万7千円までの間で選択できます。また、加入後は農業経営や家計の状況に合わせて、保険料の見直しがいつでもできます。

④終身年金です。

- 年金は終身受給できます。80歳前に亡くなられた場合には死亡一時金が遺族に支払われます。

⑤税制面で大きな優遇措置があります。

- 支払った保険料は、全額が社会保険料控除の対象となります。
- また、年金として受給する際も控除が適用されます。

⑥一定の要件を満たす方は保険料の国庫補助があります。

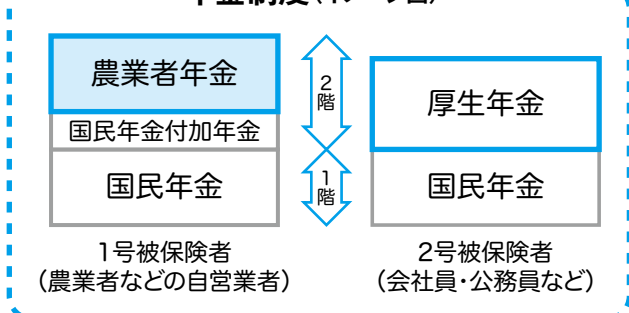
- 補助を受ける場合の保険料は月額2万円に固定されます。
- 最長20年間保険料の国庫補助が受けられます。



※保険料支払いによる節税効果の目安

課税対象所得	税率	加入者の支払った保険料に対する節税額		
		政策支援加入	通常加入	
		月額1万円 (年額12万円)の場合	月額2万円 (年額24万円)の場合	月額6.7万円 (年額80.4万円)の場合
195万円以下	15.1%	18,000円	36,000円	121,000円
195万円超 330万円以下	20.2%	24,000円	48,000円	162,000円
330万円超 695万円以下	30.4%	36,000円	73,000円	244,000円

年金制度（イメージ図）



詳しくは農業者年金基金のHPをチェック！

☆農業者年金のお問い合わせは☆

袋井市農業委員会（袋井市役所農政課内）
TEL44-3167 袋井市新屋一丁目1番地の1
（一社）静岡県農業会議 TEL054-255-7934
静岡市葵区追手町9-18 静岡中央ビル7F



いまい保全の会×今井小学校「田んぼの楽校」

いまい保全の会では、用水路の修繕や草刈りなど農地の保全活動に取り組んでいます。その中でも地域の小学校や幼稚園との共同活動として、農作業の体験学習や食育教室（田んぼの楽校、畑の楽校）を毎年開催しています。

今年は6月12日に今井小学校5年生を対象に田んぼの楽校が行われました。

生徒たちは地元の農家さんたちから田植えのやり方を教わると、田んぼへ入り田植えに挑戦。腕や足にたくさんの泥を付けながら奮闘していました。

普段食べているものがどういう作業を経て食卓まで届いているのか、食べ物を作ることの大変さを知ってほしいという活動組織の方々の思いが伝わってくる様子が見受けられました。



市内には、いまい保全の会の他に、現在12組織が活動に取り組んでいます。その活動面積は市内耕作面積の約7割を占めています。

市では、農村環境の保全活動に対して「多面的機能支払交付金事業」を行っており、この事業により交付される交付金を活用し、用水路の修繕や耕作がされなくなった農地の有効活用など、地域が抱える課題の解消に向けて主体的に取り組んでいます。

活動組織の名称

三川地区農地・水・環境対策推進協議会(三川地区)	村松西農地・水保全の会(村松西地区)	下山梨上環境保全の会(下山梨地区)
笠原三沢環境保全協議会(笠原三沢自治会)	浅羽一万石(浅羽、笠原、磐田市豊浜地区)	大日ぼたるの里環境保全会(大日自治会)
なわて会(木原、土橋自治会)	いまい保全の会(今井地区)	アグリティ豊笠(豊沢、笠原地区)
沖山梨つぼみの田んぼ(沖山梨自治会)	宇刈三澤水と緑の会(宇刈三澤自治会)	
一本松の会(長溝自治会)	ひがし水土里の会(東1地区)	

詳細は、農政課農地整備係(0538-44-3217)までお問合せまたは、QRコードの読み取りをお願いします。



編集後記

今回、農業委員会だよりを発刊するにあたり、初の試みとして8月下旬に農業委員会事務局(袋井市役所農政課農地利用係)ヘインターンシップとして来てくれた大学生2名が本紙の構成や、取材などを手伝ってくれました。

どうすれば手に取ってもらえるか、どうすれば袋井の農業に興味を持っていただけるかを話し合いながら作成した農業委員会だより、楽しんで読んでいただけたでしょうか？



FUKUROI NOGOYOU

袋井市農業振興会では市内で栽培された農産物のPRに加え、開催予定のイベント情報などを随時公開中！
「フォロー」や「いいね」をお待ちしています♡

